

学級経営について(生活バズ)

高丘中学校校内研修会
於、姫路市立教育研究所
1984年8月1日

内容

1. バズ学習の基本仮定
2. 生活バズとバズ学習
3. バズ学習と集団
4. 効果的なバズの進めかた
5. バズ導入期の課題
6. 生活バズ運営上の留意点

1. バズ学習の基本仮定

- ・「学級経営の意味」 学習指導、生活指導の両過程を、学級の中でもっとも有効に展開させる条件を追求する営み、と捉えておく。
- ・「特定の指導法への接近」 バズ学習に限らず、様々な指導法を試みる場合は、まずそこでの基本理念をしっかりとおさえることが大切である。
- ・「バズ学習の5つの基本仮定」 バズ学習の基本的仮定として、塩田教授は5つをあげている。
 - (1) 人間は個性的存在であると同時に社会的存在である。
 - (2) 教育は児童生徒の自己統合、自己実現を援助するプロセスである。
 - (3) 人間関係は教育の基盤である。
 - (4) 組織的教育は、通常集団状況での教育である。
 - (5) 児童生徒は、教師から学ぶと同時に、仲間からも多くの事柄を学ぶ。

2.生活バズとバズ学習

- ・バズ学習は生活バズにその実践の出発点があった。

例．八開中学校の復習バズ、クラブバズ。

- ・しばしば、バズを教科に導入するにあたって、その準備手続きとして、まず生活バズを試みることもある。
- ・ただし、バズは生活バズに限ったとしても、教科指導の領域でも、バズの基本仮定はおさえ、一貫した指導態勢を整える必要がある。そのためには、教師間での十分な討議、調整が求められる。

3.バズ学習と集団

- ・バズ学習は、必ずバズとよばれる話し合い活動を用いなくてはならないというような、固定的な指導法ではない。
- ・ただし、バズ学習のねらいを実現するためには、小集団によるバズがしばしば有効であることも忘れてはならない。
- ・バズ学習では集団づくりを重要な教育目標と考えている。しかし教育のゴールは学習者ひとりひとりの望ましい変化にあると考える。その意味では、集団づくりは下位目標なのである。
- ・「集団」という言葉は人によってさまざまなイメージをいだきうる言葉である。したがって、教師集団の中で「集団」をどう捉えるのか、十分論議することが必要だろう。
- ・また、学習の効果を上げることのできる集団の性質について、すなわち、集団づくりのゴールについての検討も必要となる。
- ・「バズ学習での集団づくりの視点」としてつぎの4点をあげる。
 - (1)ひとりひとりの児童生徒の学習にたいする欲求を発展させ強化する機能をもつ集団。
 - (2)ひとりひとりの児童生徒に自己実現の場を提供できる集団。
 - (3)児童生徒自身の社会的認知や、態度や、行為が妥当かどうか自己評価できる集団。
 - (4)児童生徒の社会的、文化的適応を促す集団。

・「集団づくりの評価」 集団の成長を適切に評価できる方法を用いることが必要である。

(1)バズ学習ではフランダースの研究による、学級構造の3次元にもとづく方法を考案してきている。(3次元=権威構造、目標指向構造、社会的接近構造)

(2)その他、高旗正人 講座自主協同学習1 にも評価の様式例あり。

・「集団の教育的意義」 長所、短所あり。列挙した内容は省略。

・「バズ学習で捉えている小集団の意義」 10点列挙。内容は省略。

・集団の短所のみあげつらうのではなく、集団の長所をいかにひきだすかを考えることが大切である。

4.効果的なバズの進めかた

・バズはあくまで児童生徒が主役の指導ステップである。そこではメンバーひとりひとりの思考タイプ、思考スピードが許され、保障されなくてはならない。また、必要に応じて十分なメンバー間の相互作用が可能でなくてはならない。

・そこでは、教師は援助者としての役割をもつ。学習者の学習過程には介入してはならない。このことは、生活バズ、教科バズともに同様である。

・「バズの効果をあげる条件」 集団編成、リーダー、ストラテジーなどの諸条件に言及。詳細は省略。

5.バズ導入期の課題

・バズ学習についての共通の認識を教師と児童生徒の間でもつところから出発する必要がある。「手引き」による学習の機会をもつことが望ましい(「手引き」は「バズ学習の理論と実際」に例がある)。

・話し合いのしかたについて予め訓練をしておくのがよい。そのポイントは、

(1)理解しやすい、聞き取りやすい、豊かな内容の話し合いができる。

(2)相手の立場や状態を適切に把握して発言できる。

(3)集団の中で自分ひとりの欲求を満たそうとするようなこと(支配しようとする、目立とうとする、など)をなくする。

・「話し合い訓練の方法」 事例紹介、内容は省略。

6.生活バズ運営上の留意点

・「学習指導目標の明確化」 生活指導の領域でも目標の明確化は大切な条件である。態度指導領域の目標は多岐にわたっているが、その系列化、組織化は、今後の実践上の大きな課題である。

・「ときに応じた評価の積極的導入」 児童生徒ひとりひとりの変化、集団の変化について確かめ、つぎの指導に役立つ情報を得る必要がある。方法はテスト、質問紙、観察など場合に応じて工夫することになる。児童生徒の自己評価、相互評価も活用すべきである。グループノートも利用できよう。

・なお、生活バズは児童生徒の自治的活動を援助育成するものである。教師の指導強化の道具として用いられるべきでないことは当然である。

・また、生活バズは学習指導の領域の指導とも切り離すことのできないものであるので、学習、生活の全指導システムの中でその展開を考えてゆく必要がある。